会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業  （２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回専門学校教員概論研修プログラム開発委員会 |
| 開催日時 | 令和5年7月10日（月）13:00～15:00 |
| 場所 | リファレンス駅東貸会議室 |
| 出席者 | 事業責任者：岡村　慎一、成底　敏　　　　　　　　　　計2名  委　　　員：松田　義弘、佐藤　昭宏、水田　真理、丹田　桂太、  　　　　　　佐藤　善邦、小田　茜、小田　政江　　　　計7名  請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | 〇今年度の事業計画について（佐藤）  ・資料の「2023年度教員概論研修プログラム開発委員会の事業計画」をもとに説明。  〇今年度の事業計画についての質疑・意見交流  ・回数と誰が行くのか、を決めてほしい。要するに研究者の方は2人で、学校側からは1人は必ず行くようにしようとか。（飯塚）  →予算が2名までということだったので、2名ずつということと、東京に行く場合は、東京にいらっしゃる方にプラスで入ってもらうということにしている。（小田（茜））  →TCE財産とかは、2名としては植上さん・丹田さんが言って、私と水田さんは東京組だからそれに同席するという形で組んでいる。これは問題ないか。（佐藤（昭））  →組み方は問題ない。ちょっと気になるのは、TCE財団について、岡村さんがどのように思われるかわからないが、TCE財団は誰を対象者として調査をしようと思っているのか、という話。要するに現場サイドの事務局員を対象にしたいのか、それとも財団には研修中央委員会ということで、研修自体を司るための仕組みがあるので、そこの代表者の方を対象にするのかによって、聞くことなどすべてが変わってしまうので。ちなみに市ヶ谷に行って、担当から話を聞くとなると、いつどこで何の研修をやります、レベルの話しか聞けないと思う。例えば、具体的に新任教員研修というのは、僕が財団にいるときに1番初めに作って、それをキクタ現参与が、僕が作った規定を変えて現状の運用に至っているという現状。そこから先は今の事務局員は運用のことをやっているので、前4名については何を聞いてもわからない状態。だから、市ヶ谷に行く意味っていうのは、もし政治的にとか行政的にという話しで聞きに行くのであればそれこそその委員会の中で一番発言権の強いであろうと思われる岡村さんであるとか、あとどういう方が研修中央委員にいるかわからないが、研修中央委員に話を聞きいかないと、内容面を突っ込むとすれば、それは市ヶ谷に行ったら空振りになる。（飯塚）  →まさにその内容面に関しては、項目として設計してきているところもあるので、今の話を聞いていると、飯塚さんがいるうちに内容のところも意見をもらっておいた方が良さそう。（佐藤（昭））  →今、飯塚さんが言ったように、新任教員研修というのは大きな題目だけは決まっているが、あとは各都道府県に委託されているので、内容について聞こうとすると、例えば麻生さんがいる福岡専各はどのようなスタンスで行っていますか、とかは、福岡専各に聞かないと出てこないだろうと思う。事務処理は財団でやっているが、それ以上のことは財団からは出てこないだろうと思う。それから管理者研修については、唯一事務局の方がコーディネーションをしている文部科学省の方の意向等を踏まえてやっているところが強いかなと思っている。それから中堅の方は、私が委員長なので、おそらく内容は私が一番詳しく知っていることになるだろうと思っている。そのような状況なので、一応了承をもらうという意味では、事務局のキクタ参与、ないしは今主任になったフジイさん、この委員にも入ってもらっているので、そこの了解を得て、委員の方にそのヒアリングをするという結果として、それが私なのか、副委員長のコガさんとか、研修中央委員会の方でいくとヒラタ先生とかになると思うが、内容に関しては、なかなか研修中央委員会の委員ではコメントできる状態ではないような気もする。そのような状況。（岡村）  →今の指摘も貴重な意見で、まず押さえとしてはそのような動きをするということは合意をとっておいた方がいいと思うので、入れるとしても具体的な中身を聞いていくとすると、内容によっては都道府県の専各に聞いていかないといけないというところは、今助言してもらったところだと思うので、質問項目を詰める段階で、対象も精査していければと思う。完成段階ではないが、今の段階でどういった項目を聞いているのか、聞こうとしているのかというのは、現状を早めに先生方に共有して、意見をもらえればと思う。先に丹田さんの方から、TCE財団でどのようなことを聞こうとしているのか、ということを共有してもらって、意見をもらえればと思う。（佐藤（昭））  〇TCE財団に対するインタビュー調査の質問項目案について（丹田）  ・資料の「一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団（TCE 財団）に対するインタビュー調査の 質問項目案について」を基に説明  〇TCE財団に対するインタビュー調査の質問項目案についての質疑・意見交流  ・先ほどの飯塚さんや岡村先生の意見を踏まえると、実施状況だとか時期とか辺りはTCE財団の方で情報が取れるかもしれない、というくらいで、後のものは難しいという捉え方で大丈夫か。（佐藤（昭））  →植上さんの方に送っている資料で、内部資料なので財団の方に確認は必要だが、研修中央委員会に各都道府県で実施している実施計画案というのが提出される。文部化科学省の補助事業なので2分の1の経費を計上しなければならないということで、その承認をするために、研修中央委員会の方がすべての都道府県でやっている研修内容と研修の講師案を提出してもらっている。それを私も持っているので、それを植上さんの方には提出している。なので、それを丹田さんに見てもらうと各都道府県、例えば福岡の方では植上さんがこういうことをやられています、とかがまとまっている。それを見てもらって、この都道府県の話を聞きたい、というところをピンポイントで決めて、財団の方から依頼をするというのが1つ現実的かなというのが、新任教員研修に関しては思う。この辺り植上さんと調整をして、丹田さんが決めるといいかなと思う。（岡村）  →ありがとうございます。先日、研究者ミーティングをこちらの会議前に行ったが、その際に画面共有という形でおそらく今、岡村先生から話が合った資料を見せて。今後そういった資料についても、中身を具体的に見ながら、今それぞれの専各にヒアリングをした方が、という話もあったので、具体的な研修の内容とそれに関わった課題感とかは学校にヒアリングに行く際にも合わせて聞くことができればと感じた。（丹田）  →やはりカラーが出てきていて、大学関係者に講師に来てもらうということをメインにしている都道府県とできるだけ専門学校の現場の先生、あるいは校長先生とかからやってもらうところと、特色あるなという感じなので、そういうところを目的としているのかとかが違っていると思うので、その講師メンバーとかタイトルとかを見る中で感じるところはある。なので、新任教員研修はそれで話ができるかなと思うし、場合によっては私が入れば話は早いかもしれないなとは思っている。その辺はまた調整ができればと思う。中堅教員は、私がヒアリングを受ける側になるというのもどうなのかなと思っているが、その辺りは他の人に聞きたいということであれば。副委員長のコガ先生とか、そういったところに話を通すということもありかなと思うし、東京都の方の研修委員であれば、ヒラノ先生という方に入ってもらっているので、そのあたりに対応してもらうというのも、フジイ先生と調整することが、今度14日に別の委員会があってそこで調整できると思う。（岡村）  →ありがとうございます。今の話を受けて、3つくらいやることがあるかなと思っていて、まずは公開データの中で、どのデータが二次利用できるのかということを明らかにすること、2つ目の意見については、非公開だけれども既に情報として取得されているものを然るべき手続きに沿って利用させてもらうということのステップをとること、それらをやった上で聞かないといけないものが何なのかを整理して、先生のお力をお借りしながら必要な方に聞いていくということ、この辺りがまずTCE財団に対するインタビューでは、今もらったアドバイスを踏まえて、自分たちが動けることとしては、あるのかなと思う。他の先生方から、丹田さんの報告内容についてご意見等あれば。（佐藤（昭））  →僕が新任教員研修を立ち上げた目的というのは、要するに文科省側から専修学校という制度ができた。で、このできましたというときに、教員というのが、産業界から急に教壇に立っている人がいて、教育概論であるとか、子どもたちの心理学とかであるとか、教育方法とか、そういったことが分からない、ということだった。じゃあ、そこは補助金を出しましょう、ということで48時間のカリキュラムを作った。48時間のカリキュラムというのは東専各がベースになっていて、当時、筑波大学と津田塾の関口先生に作ってもらったカリキュラム。そこに対して、埼玉大学の方から情報を借りて、作り上げたカリキュラム。で、各都道府県に話をして、はじめ13だったのが、それが今は21までなったのが僕の段階。このやり方は、この48時間のカリキュラムをやってくれるのであれば、補助金出しますよ、という考え方。だから、新任教員研修を文科省事業の補助事業と位置付けるのは、補助金を出すならこのカリキュラムをやってください、というやり方で、教材は東専各から買い付けてそれを売っていたというやり方が1つ。それから僕の時代に21まで持ってきたが、これ以上伸びなかった。伸びなかった理由は明確で、それをやるだけの能力がないという都道府県の専各がある、というのが1つと、もう1つは既に知事が認定を出しているというのがあった。例えば北海道なんかは国からの委託の何かを出すよりも、北海道の道知事が出している教員認定などをやった方が道内として回るということで、北海道に対して供給することができなかった。だから財団で集められるのは、財団の方でプログラム・カリキュラムを作って、これでやってと言った都道府県の担当の人たちが名前に対してカスタマイズをする感じ。例えば、「専修学校教育論」というのがあったとすると、校長先生に2時間話をしてもらう、とか、これは何を学べばいいのか、ということが当時は明確ではなかったので。（飯塚）  →とても貴重な情報。タイトルは同じでも、内容は変わっているかもしれない、というところの実態がどうかみたいなことを見に行かないといけない、というパターンと、それとは別に自前でこれが必要だと思ってやっている人たちがいて、その人たちが今何をやっているか、ということも聞いた方がいい、ということ。（佐藤（昭））  →そういうこと。あとTCE財団で捉えているところは、あくまで文科省の補助事業をベースとして、補助金をもらいたいというところが来ているだけで、例えば北海道であるとか大阪、兵庫などは既にどうやら県の方から教員認定がされているエリアはそういうのいらないということになる、都道府県認可だから、自前でよくて、ということがあるので、TCE財団だけでは拾いきれないところがある。（飯塚）  →となると調査対象先として、今の候補が妥当なのかどうかは考えなければいけないということになる。（佐藤（昭））  →TCE財団の方でいくつやっているかわからないけど、17とかだと思うけど、そこに当てはまらない都道府県は一度そこのホームページを見てもらうと、県専各としてはこういうことをやっています、ということが入ってくると独自のプログラムが存在する。（飯塚）  →残りの都道府県がすべて独自のプログラムがあるかといったら、それはどうかわからない。（佐藤（昭））  →そうなる、僕の時代にはなかった。僕がやり始めて入ってきたのが、大阪、兵庫、北海道、ここは道や府の方が教員の質のワッペンを貼ります、ということになっている。その辺のバックグラウンドがある。新任教員研修について、市ヶ谷は交付団体というポジションになる。要するに自分たちが設計したカリキュラムの48時間でこれをやってというだけで、あとお金をどう交付しますか、ということしか考えていない。だから、いつどこで誰が何時間やったということを集めるなら、それはそれでいいが、もし教員のアイデンティティとかから入っていくとすれば、それは県専各の方から入っていかないと無理かなと思う。（飯塚）  →その辺りそれぞれの自治体によっても特色があるという話だったが。（佐藤（昭））  →そうだと思う。だから、まずはこれをやったらどうかと思うのは、僕が聞いていると、東京は東京で走っている、自分たち独自のものが。逆に言うと、東京が遅れをとっているのは、大阪から遅れをとっているから、やはり大阪は見に行かないといけないのかなと思う。フクダさんのところに直接行くということになると思うが。（飯塚）  ・TCE財団への質問項目を書かれているが、これは他の学校に調査に行くときも同じ質問内容になるのか。（松田）  →各学校への質問項目は、この後小田さんの方から報告してもらう。（丹田）  →それともう1つ質問になるが、この研修をするときに、今、新任教員研修1つの研修メソッド、内容についてはどういうふうにしているかということ。この研修プログラムを作るときに、この新任教員研修プログラムは、どのような意義があるのか、とか、そういった大きなところからの観点というのはないのか。この質問内容では、そういう観点は全く入っていない、ただのメソッドの方ということ、単純に言うと。その新任教員研修はそもそも研修するとき、研修というのは体系から始まる。でこの新人教員研修というのは、どういった中の位置づけであって、体系から入ってということから始まると思うが、そういったのはこのTCE財団は研修屋さんだろうから、そういったことを考えることなく、ただ新任教員研修をどのようにやるかしか考えてないから、そういうことになると思うが、学校の場合はそうではない場合があると思う。そういったことがあったので、質問内容は同じかということを確認した。そういったことはまた別に説明があるということでいいか。（松田）  →ありがとうございます。最初の質問について、学校に対するヒアリングというのは、後ほど小田先生の方から報告してもらう。それから2点目の研修の意義等については、今回の項目の中には十分に入れられていないので、TCE財団の市ヶ谷のところに聞きに行くということであれば、意義等についても項目として入れられればと思う。（丹田）  〇専門学校調査における質問項目について（小田（茜））  ・資料「インタビュー調査（委員の先生方・委員以外の先生方への専門学校調査）における質問項目（中項目）イメージについて」をもとに説明。  〇専門学校調査における質問項目についての質疑・意見交流  ・「どのくらいの期間」というところで、「期間」というのは回数とか、タイムリー性というのは含まれているのか。（松田）  →抽象的だったが、ここで書いたのは「時期」をイメージしていたが、他にも若手というと何歳から何歳くらいまでなのか、とか、そういったこともお聞きしたいということであったり、あとは例えば1日で終わる研修であったり、とかいろいろな意味合いを含んでしまっている、という認識。（小田（茜））  →重要なのはタイムリー性であって、専門学校の先生はいきなり授業をやることになる。そうすると全く未経験の時に研修をやっても内容によっては何のことかピンとこない。半年くらい経験するといわゆる担任業務とか生徒指導とかの教科指導とはことなる部分がある。そうなると半年経ってまたやるのと、全然違う。その辺のタイムリー性があるので、いつ、どういう内容をされているか、という質問だと、よりこういう内容だとこういった時期にやるといい、といった内容の研修が構築できてくるのかなと思う。（松田）  →それは学校によって、最初にやる研修と半年後にやる研修というものをいくつか取り入れている学校もあれば、異なるところもあるということ。（小田（茜））  →内容によると思う。4月に入る前にやるべきものと、これは経験しないとやってもピンとこないということと、内容によると思うので、そういったことを分けてやっているのかというところが質問に入ってくるといいのかなと思う。目的とかとも関連してくる話かもしれないので。（松田）  →ありがとうございます。（小田（茜））  ・対象に関して、各学校の人事責任者となっているが、学校の現場の実際の先生の人事担当に行くのか、それとも法人の人事部があるのでそちらの研修の責任者に聞くのか、その点はどちらを想定しているか。（佐藤（善））  →その点は、研究者グループで考えていたのは、各学校の人事責任者の先生や研修開発の先生にもヒアリングしたいが、それぞれの学校の現場の先生にも聞くことができればと思っている。中心としては、人事責任者や研修開発の先生を想定している。（小田（茜））  →法人の中の人事部という認識でいいか。そうでないとおそらく学歴・職歴とか、そういったことは学校の責任者は履歴書とかは見るが、それ以上の情報は入っていないので、そうすると、これを学校単体の人事責任者、学校責任者になると思うが  それが答えるとなるとちょっと難しいのかなと思うので、インタビューの対象は人事部とかのスタッフ部門の方に話をするのがいいのではないかなと思った。（佐藤（善））  →ありがとうございます。（小田（茜））  →今の佐藤さんが話で、本部機能がある学校グループ群とそうでないところにおいては、本部と各学校で、研修人材育成でどういった役割分担をしているか、という視点の質問なり、捉え方が1つ前提として必要かなと思う。その上で、もっと大前提で行くと、この文科省事業は「教職員」というタイトルをつけているので、FD・SDで、ボーダーレスの先生方もいる。いわゆる中堅とかベテランとかになると、先ほど松田さんが言ったように、マネジメント業務が多くなる先生も出てくると、ちょっと研修も違ってくるので、その人たちはFDかSDかということになってくるので、少し整理をしておく必要があるのかなと思っている。それともう1点、①②③とあるが、①は個人に聞かないと答えづらくないか、理由や契機というのは、管理者・人事担当者が皆、答えられるかというと、多分答えられないので。少なくとも①は何人かサンプリングした教職員から聞く、みたいにしないと、これは答えづらいかなと思った。この点は、誰をという点は、ターゲットを少し整理した方がいいかなと思う。（岡村）  →専門学校教員概論を最終的に作るというところがあって、佐藤さんにも資料で示してもらった「５．『専門学校教員概論』案について」の章立てを示しているが、「専門学校教員になるということ」「専門学校教員のキャリア形成と必要な資質能力」というところで、章立てになっている。専門学校教員になぜなったのか、とか、どのような教員になっていくのか、ということを捉えるという意味では、その点に関しては、今岡村先生が言われたように現場の先生に聞いた方がいいのかなと感じた。なので、人事責任の方と現場の先生方それぞれに聞いた方がいいのかなと思うが。（小田（茜））  →そこは研究メンバーで、検討し直した方がいい点かなと思うが、今指摘してもらった部分に関しては、33名のインタビューしてきたデータもあるので、今回の研修開発に当たって取りにいかないといけない内容としては、先ほど言ったような個人の先生というよりは、本部スタッフの方とか、そもそもその機能がある学校とない学校があって、そこの関係整理からということだったが、そちらの方が優先度としては高いのかなと思う。我々が取れていない情報としてはそちらかなと。（佐藤（昭））  ・歴や職歴は意味あるか。専門学校の場合は、逆に教員要件が決まっている。こういう職歴がないといけないとか、そこが何年間というのが、大卒だったら〇年、短大卒だったら何年ということが決まっている。だから、これを聞く意味があるのかなと。養成施設なんかは特に決められていて、こういう人じゃないと教員になれないという要件がある。何の意味があるのかなという素朴な疑問。（松田）  →これは教員のキャリア形成の個人の話をしたときに、本人のこれまでの経歴とかといったものが、本人の教育などに対する考え方とか、指導に対する考え方にどう影響を与えていくのかとか、そういったことを捉えるにあたってこの項目を入れていたが、人事担当者向きや現場の先生向きに質問が混同してしまっていたので、人事の方に伺うときに不要だということであれば、削ってもらっても大丈夫なので。（小田（茜））  →先ほど小田さんの話にもあったが、『専門学校教員概論』の1部のところの内容を書いていく上での素材として、学歴そのものが重要とか重要ではないということではなくて、どういう人たちが専門学校の先生になってきているのかという、プロフィールの1つの参考情報として、ということも含めて、というくらいのことなので、そこまで重い情報ではないと思う。それとそもそも今回の事業全体の位置づけから考えたときにはサブ的な位置づけのものかなと思うので、指摘を踏まえて、少しチューニングしていければと思う。（佐藤（昭））  ・実際に学院の研修を設計しているので、今言われた内容で、質問してもらえれば話はできるかなと思いながら聞いていた。先ほど松田先生が言っていたように、新任であったときの、何をいつ、というのがキーポイントかなと思う。所属する学院・学園を理解するものが先に来ているとか、クラス運営をする、クラスを持っているのは専門学校の特徴だと思うので、クラス運営をする上でどのような知識を入れているか、ということ。あとは研修設計する前に、ここに書かれているように課題感、いろいろと学生さんが入ってくるので、どのようなところに課題を抱えていて、どういう研修を入れた方がいいかということをフレキシブルにやっていて、かっちり現場では決まっていないかもしれないので、その見直しを書けている時期とか、どのくらいのスパンで見直しを入れているか、というところも1つキー、行動の速さは専門学校の良さの1つだと思うので、その辺は聞いてみると、大学とは異なる、大学のFD・SDって結構かっちりしているので、其れとは違う側面での情報が得られるといいかなというのは感じた。メンタルヘルスのところとか、今後の教員もそうだし、学生もそうだしというそのエリアの研修をどういうふうに入れているか、というところ。学習障害とか不登校とか、先ほど言われていた青年期の教育的な指導方法の研修を、何をどういうふうに入れているかということを聞いてもいいかなと感じた。（小田（政））  →ありがとうございます。そこの目的、学園を理解するとか、クラス運営を行う上でとか、先ほど松田先生からもあった目的のところをもう少し細かくしながら、どういう目的でそれぞれの研修をされているのか、というところを、今の学園理解、クラス運営のためとか、課題別に、学習障害とか不登校とか、そういったところをどのように今なされているのかをもう少し丁寧に整理していきたい。（小田（茜））  →松田先生が言っていたように専門学校の先生って専門性が高い人が多くて、例えば調理とか看護の先生だったら、パソコンがすごい苦手とか、その個人差もすごいということもあるので、そこをどう埋めているかを聞いてみるのもいいかもしれない。（小田（政））  →バックボーンが本当に違うので、なかなか研修がっていうのがあって、その中で新任研修というのは非常に汎用性のあるものをしていかないといけないという観点になるとは思う。（松田）  →今の話の中でも、いろいろな業界から来ている中での標準的なベースで持っているべきスキルとかリテラシーの話と、先ほど先生方の話の中で学園理解みたいな理念統一みたいな部分もあるのかなと思ったが、その辺り成底先生はKBCでいろいろとやっていると思うが、今の先生方の議論を聞きながらのコメントとかをもらえればと思うがどうか。（佐藤（昭））  →うちの学園でも各種研修をしているが、手が届いていない部分もあるかなと思いながら話を聞いていた。私の中では少し整理というか、この観点はいると少し質問項目もまとまってくるというか、ある意味見ていけるのかなと感じたのが、本日のレジュメの1番、この委員会の目的があって、事業の目的、これはおそらく3年間の最終的な目的ということで書かれていると思う。この1の(1)の①～③の下、「専門学校員が抱える問題として、専門学校教員のキャリアモデルが見えないこと、キャリアへの定位の方法等が明確でないことなどが、あげられる。これらが早期離職や、資質能力向上の障壁になっている。それらを解決する方法として、専門学校教員のキャリアモデルの具体的な提示がある。」、で（2）の事業の目的、とあって、私も計画段階から関わっていて、私の理解不足もあるが、最終的に今回TCE財団であるとか、各専門学校の実態調査が必要だろうなと。その上で3年後に、この（2）事業の目的と構成というところで、調査した結果、実態がこうですよ、で終わるわけではないはずなので、私の頭の中で想定されているのが、特にまずは新人研修、新人として入ってきて、専修学校の教員というのはこういうことを知っていないといけない、ということ、あるいはキャリアを重ねていくと、こういうスキルが身についていく、ということを見せるということ。もう1つは、課題感、キャリアを積み重ねることによって、段階を踏まえた研修が実施されていない実態があるということが、おそらく実態調査で出てくると思うが、それに対しての何らかの解決策を示さないと、実態こうでした、で3年後終わりではないはずなので、その後の理想的なキャリアモデルをどう提示するかということも1つ視点に入れた上で、今回のヒアリングの質問項目が改めて見直されるといいのかなと思った。（成底）  →まとめのような部分も含めてコメントしてもらった。今、話してもらったのは、冒頭の飯塚さんの指摘と重なる点もあるかなと思うが、今回の調査を通じて、内容面で今後その資質能力を向上させていく上で、何が必要なのかということをただ調査しましただけではなくて、提案に繋げていくという部分と、冒頭で話してもらった部分で、そうはいっても、やっていく運用していく能力がない、なかなか難しい学校があるということに対して、この辺りは個人的な意見もあるが、今はいろいろなテクノロジーも出てきている中で、先生方が採用とか離職で困っている部分もあるので、どういう形で研修として能力育成を体系組んでくのかということが、いろんな運用に耐えうるのか、小田（政）先生からも研修の弾力性とかについての言及があったが、大きくはその辺りをしっかり押さえていくというところが重要かなと思う。（佐藤（昭））  →1点だけ、そもそもの中で、この研修でやろうとしていることの最初にあった教職員の早期離職があるという話とか、専門学校の教員って、小中高の先生のように「先生になるぞ」とか、あるいは大学のように「教授になるぞ」というようなアンカーを持って、志を持ってなったわけではないのでというのが、1つ課題感としてあったと思う。となると、能力アップ・能力開発ももちろん大事だが、キャリア形成と言っている以上は、やはりキャリアの形成というときに、何をよりどころとしてキャリア形成というのかというところを少し整理する必要があって、なんか能力研修＝何かが育成できたよね、ではなくて、あり方そのものを考えて行くということを、先生という役割を負うということは考えないといけないのではないか、というところを専門学校の先生にも、ちょっと軸を入れていかないと、今国がウェルビーイングと言っているのに、そこが分からないで、この専門学校教員で何を伝えるんだよ、となってしまうから、キャリア形成ってこういうことですよね、という側面にキャリアと能力開発というあたりは区別しながら整理をしてもらえるといいなと、多少かじっている人間としては、願いとして持っている。（岡村）  →それぞれの先生方から、ちょっと抜けそうになるところを指摘してもらえるので、ありがたいと思う。今の岡村先生の指摘は、松田先生の存在意義のところを抜かないでね、というところだったかなと思うが、いわゆるどういうスキルだとかが、ラインナップしていくのか、という話ではなくて、今の社会環境の中での専門学校の先生方の役割や意義みたいなこと、存在意義に近いかもしれないが、そこを場合によっては再定義していくということが、必要なのかなと、今のコメントを受けて、思った。こういった議論は、ぜひこの委員会の中で射程において進めていけたらと思う。（佐藤（昭））  ・学校に特色があるので、それは要するに業務独占であるとか、名称独占であるとかの学校とそうでない学校というのは、もともと指定養成だ、という学校だともう教員の考え方やポジションが違ってしまっているので、その辺はある程度意識した方がいいということと、ここは特定しましょうよというのは、私たちが作るプログラムは、新任教員にプログラムを作る、ということ、1年から3年の教員の人たちというのに、あなたが教育者としてこういうことをやっている意義はこういうことですよ、ということを伝えるためのプログラムを作るということ。いろいろな話が入ってくると、中堅の人がターゲットになったり、経営者がターゲットになったり、ぶれちゃうと収拾がつかなくなってしまうので、一旦皆さんで議論してもらって、私たちが作るプログラムは、専門学校に入ってからこれくらいの人に対して、こういうことを身につけてほしいんだ、と。それを業務独占や名称独占のような指定養成ではない学校を対象としてやりましょう、くらいの枠組みは早いうちに決めてやらないと、どんどん取っ散らかっていってしまう気がするので、限定していった方がいいかなと思った。（飯塚）  →拡散は研究メンバーが陥りがちなところなので、そこは気を付けながらやっていきたいと思う。（佐藤（昭））  ・1点だけ、先ほど飯塚さんがおっしゃっていた工学院にインタビューするときは、私を対象にしてはダメだという話があったが、それは理解しているが、インタビューの場に私が同席するのは問題ないか。（水田）  →問題ない。（飯塚）  →対象者が学内の別の方であれば問題ないということでいいか。（水田）  →問題ない。（飯塚）  ・今、小田さんに発表してもらった専門学校の先生方への各学校の調査についての議論だったと思うが、TCE財団に話を聞くにしても、各学校で実施をしている研修のというところと、おそらくおよそ重なってくる部分もあるかなと思うので、ちょっとその辺りのことは研究者グループでも検討する必要があるかなと思いながら聞いていた。（丹田）  ・うちの学校は対象校に入っているが、これは決定か。これに関しては、あまり来られても参考にならない、と個人的に感じている。章構成の第2部に関しては参考になることもあるとは思うが、第1部がほとんど参考にならないと正直なことをいうと思っている。（松田）  →第1部に関しては、既に別で撮っている情報があるので、むしろ我々がこの研修に当たって新しく取らないといけないと思っているのは、第2部と3部の方が中心かなと思っているので。（佐藤（昭））  →私は第1部の内容も一緒に聞くのかなと思っていた。申し訳ない、混乱させてしまった。（小田（茜））  →中心は2と3になる。（佐藤（昭））  ・そろそろラップアップになっていくかなと思うが、今日もらった意見を踏まえた宿題というところでは、TCE財団の計画を練り直す、というか修正する必要があるかなと思う。その時に、すぐにでもというか、我々でできるのは、繰り返しになるが、公開データから何が明らかにできるのか、非公開だけれども結構そこにリッチな情報があるということについて正式な手続きを取って使えるようにするということはすぐにでも動けることかなと思う。で、3つ目の今日もらった主な意見に関わる部分だが、TCE財団のある意味カリキュラムに沿ってやっているけれども、どう中身をチューニングしてきているというか、今の時代に合わせて変えてきているのかということを知りに行くという対象群と、そこに載っていないけれども独自の工夫した取り組みをされている自治体の研修群の情報を取りに行った方がいいよと話があったと思うので、その辺を、何を聞きに行くのか、どういったバランスで聞きに行くのかということ、中身に関わることなので、その辺は、丹田先生が担当する部分ではあるが、ちょっとまた一緒に研究メンバーで整理する必要があるかなと思っている。もう1つ、小田（茜）のインタビュー調査の方では、誰対象に聞きに行くのか、という話もあったし、そもそも前提として学校の大きさや規模間の違いもあって、本部機能があるところとないところとか、そもそもその人が担っている役割のFD・SDのバランス感とかも含めて、聞く内容とかも変わってくるので、誰対象に聞きに行くのかというところは、今回の研修は新人を対象にということになるが、そういったことを考えたときに誰に聞きに行くのかといったことをもう1回精査する必要があるということと、あとは単純なスキルとか能力ラインナップだけにとどまらずに、そもそもの今の時代における離職の問題とか考えたときに、やはり専門学校の先生の存在意義だとか今の時代の役割みたいなことの再定義につながるような情報をどう出せるかという観点から、何を聞きに行くのかみたいなところを見直しましょう、みたいなところが先生方から今日意見としてもらったところかなと思うので、そこを次回に向けて詰めてくるということが宿題かなと思う。岡村先生そのような方向でいいのかということについて最後にコメントをもらえればと思う。（佐藤（昭））  →今の整理でいいと思う。できれば、14日にフジイさんと会うので、その時に私の方でTCE財団の方に確認すべきことがあれば、メモ書きをもらえればと思う。それと、25日には中堅教員研修の委員のメンバー、コガ先生とかにも会うので、そちらも併せて依頼が必要であれば、東京都専各の方に依頼することも可能、ということを伝えておく。（岡村）  →7月14日、7月25日に岡村さんを通じて依頼をということについては、丹田さんを中心に、もちろん研究者で意見も出しながらできればと思う。（佐藤（昭））  ・今後のスケジュールについて冒頭であったが、具体的なちょっと執行として、8月にTCE財団や先ほど上がっていた3法人にインタビューをするとなれば、既に日程調整をしていないといけないとか、今回の委員会で質問項目がコミットされている状態がないと、おそらく8月のヒアリング・インタビューが厳しくないかなというところで、今後Slack上で、これでいいか、というコミット取るのもありかな、と思うが、そのあたりのスケジュール感で、当初のスケジュールだと第2回委員会は調査の結果の分析という形になっていたと思うので、その辺りは植上先生も含めてスケジュール感の調整というのは出てくるかなと思うので。（成底）  →現実的なところでコメントをもらった。これ計画立てている段階では、全専研の比較的関係性のある先生方にまず早めに話を聞きにいってというところで組んでいたが、今日の話を踏まえるとここの調査対象自体も少し変えないといけない部分もあるかなと思うので、スケジュールについては、植上先生と早めに相談して、成底先生に共有するようにしたいと思う。（佐藤（昭））  →今日の進行の状態で行くと、おそらくオンラインかどうかはわからないが、7月末か8月頭辺りに、ヒアリングの質問項目の最終確認・調整の場があった方がいいのかなと思う。（成底）  →そう思う。今の段階だと対象と内容も見直すということがあるので、そこについて先生方に合意してもらってから進めるということが必要かなと思う。そこをどういう刻み方をするのかは、植上先生にも今日の結果を共有しながら、連絡させてもらえればと思う。（佐藤（昭）） |
| 配布資料 |  |

以上